

# 西郷隆盛と庄内のゆかり



庄内藩 中老 菅実秀 (菅実篤/協力庄内日報社)



庄内藩主酒井家13代・15代 酒井忠篤 (致道博物館蔵)

## 戊辰戦争

～慶応4年(明治元年)～  
慶応4年(明治元年)庄内藩は新政府軍と戦い、帰順降伏しました。しかし、庄内藩に下された処置は寛大なものでした。

## 徳の交わり

～明治3年～明治8年～  
旧庄内藩 中老 菅実秀 (臥牛)は、寛大な処置を指示したのが西郷隆盛(南洲)だと知り、西郷に深い感銘を受けます。  
明治3～8年にかけ、旧庄内藩主をはじめ多くの旧庄内藩士たちが鹿児島を訪れ、西郷の学びを得ました。  
こうした親交は後に「徳の交わり」と呼ばれます。



西郷隆盛(南洲)と菅実秀(臥牛)の対話坐像 (庄内南洲会 南洲神社)

## 松ヶ岡開墾

～明治5年～明治10年～  
庄内地域の発展を願い、旧藩士3千名が刀を鋤にかえ明治5年から月山麓の大原始林を開墾し、松ヶ岡開墾場となづけました。  
明治10年に蚕室10棟を建設し、蚕糸業を興し地域に貢献します。

## 庄内の二青年と西南戦争

～明治10年～  
明治8年、南洲翁が設立した私学校へ庄内の二青年が特別に入学を許可されます。  
明治10年、西南戦争が始まり、二青年は帰郷を論ぜられますが、従軍が許され参戦し、戦死してしまいます。  
南洲翁は城山の露と消え、二人の御霊も共に鹿児島市の南洲墓地に眠っています。

## 『南洲翁遺訓』を編纂・全国行脚し配布

～明治22年～明治23年～  
南洲翁の没後12年後、明治22年、明治天皇により南洲翁の職名が解かれ、正三位が贈位されました。  
旧庄内藩士たちは、南洲翁の真精神を伝えるために「南洲翁遺訓」を編纂し、明治23年に発刊、全国を行脚しながら心ある人々へ配布します。

## 南洲神社創建

～昭和51年～平成～  
昭和51年、南洲翁の遺徳をたたえ、南洲翁と臥牛翁を祀る南洲神社が酒田市に創建され、今なお敬愛の精神が受け継がれています。

## 平成30年 企画展情報

### 致道館

西郷隆盛と鶴岡の結びつきの紹介記事や関連資料を展示  
(5/27～翌3/31)

### 大宝館

明治維新150年～新たな時代の開拓者たち～ (4/1～翌3/31)

### 酒田市立資料館

第207回企画展 「酒田の明治時代 文明開化のおもいで」 (6/16～8/27)

### 第208回企画展

「幕末の異才・本間郡兵衛の軌跡」 (9/1～11/18)

### 致道博物館

旧鶴岡警察署庁舎保存修理完成記念第2部

「庄内近代化物語」 (6/20～7/25)

明治維新150年

「西郷隆盛と庄内」 (7/28～9/5)

### 本間家旧本邸と別館「お店」

明治維新150年特別企画  
「戊辰史料展～戊辰戦争で使われた品々～」 (7月中旬～9月初旬)

### 本間美術館

～激動の時代～ 西郷隆盛と志士たち (7/27～9/25)

## 庄内へのアクセス



### 航空機をご利用の場合

- 東京(羽田空港)→庄内(庄内空港) 約1時間
- 名古屋(小牧空港)→山形(山形空港) 約1時間
- 大阪(伊丹空港)→羽田空港乗継→庄内(庄内空港) 約3時間

### JRをご利用の場合

- 東京(上越新幹線)→新潟(羽越本線)→鶴岡・酒田 約4時間30分
- 東京(東北・山形新幹線)→新庄(陸羽西線)→酒田・鶴岡 約4時間30分
- 大阪(北陸本線)→新潟(羽越本線)→鶴岡・酒田 約8時間

### 高速バスをご利用の場合

- 渋谷→鶴岡・酒田 約8時間

### お車をご利用の場合

- 東京～(東北道)→村田JCT→(山形道)→鶴岡・酒田 約6時間
- 東京～(関越道)→新潟中央JCT→(日本海東北自動車道)→朝日まほろばIC→(R7)→あつみ温泉IC→(日本海東北自動車道)→鶴岡・酒田 約6時間

## 庄内観光コンベンション協会

〒997-1392 山形県東田川郡三川町大字横山字袖東19-1 庄内総合支庁内  
TEL 0235-68-2511

# 西郷隆盛 ゆかりの地 やまがた庄内



西郷隆盛肖像画(佐藤均 画/致道博物館蔵)

YAMAGATA  
SHONAI



西郷隆盛ゆかりの地 やまがた庄内

## 庄内観光コンベンション協会

協賛：やまがた観光キャンペーン推進協議会

## 新しい時代の先覚者 西郷隆盛



西郷隆盛肖像画(佐藤均 画/致道博物館蔵)

西郷隆盛は薩摩藩士として、島津斉彬のもとに頭角をあらわし志働します。薩長同盟を締結後、戊辰戦争時には江戸城無血開城を実現。新政府の参議、陸軍大将として政治を主導しました。しかし、朝鮮派遣を巡って政府内で対立し、鹿児島へ下野。その後、西南戦争が勃発して没しました。



西郷隆盛筆「敬天愛人」(致道博物館蔵)

## 敬天愛人

「敬天愛人」という言葉は、南洲翁が多く揮毫した言葉の一つです。  
南洲翁は沖永良部島に流刑され、牢獄での厳しい生活をしていましたが、島の民に交わり交流を深める間に「敬天愛人」の精神を体得したといわれています。

## 西郷隆盛の生涯、庄内との関わり

年号	西暦	年齢	出来事
文政10年	1827年	0歳	鹿児島の下加治屋町に生まれる
弘化元年	1844年	16歳	薩摩藩の郡方書役助となる
嘉永5年	1852年	24歳	伊集院頼賢と結婚
安政5年	1858年	30歳	月照との入水
安政6年	1859年	31歳	奄美大島に流刑、愛加那と結婚
文久元年	1861年	33歳	召還状が届き、翌年鹿児島へ帰還
文久2年	1862年	34歳	徳之島へ帰還
〃	〃	〃	沖永良部島への連島命令
元治元年	1864年	36歳	赦免され沖永良部島から鹿児島へ帰還
慶応元年	1865年	37歳	若山永と結婚
慶応2年	1866年	38歳	薩長同盟
明治元年	1868年	40歳	江戸城の無血開城
〃	〃	〃	戊辰戦争、庄内藩に寛大な処置
明治3年	1870年	42歳	旧庄内藩主酒井忠篤と旧藩士70余名が訪奥
明治4年	1871年	43歳	旧庄内藩中老菅実秀と会見する
〃	〃	〃	廃藩置県
明治6年	1873年	45歳	明治政府を去り、鹿児島へ帰る
明治7年	1874年	46歳	鹿児島に私学校を設立
〃	〃	〃	旧庄内藩士達が西郷の教えを請う
明治8年	1875年	47歳	旧庄内藩中老菅実秀、旧藩士と徳の交わり
明治10年	1877年	49歳	西南戦争にて没

## 西郷隆盛没後の庄内

年号	西暦	出来事
明治22年	1889年	南洲翁の職名が解かれ、正三位が贈位される
〃	〃	菅が旧庄内藩士達に指示し、「南洲翁遺訓」を編纂
明治23年	1890年	「南洲翁遺訓」発刊、全国行脚して配布
昭和50年	1975年	酒田市に財団法人庄内南洲会を設立
昭和51年	1976年	南洲神社 創建、南洲会館 建設
平成13年	2000年	西郷隆盛(南洲翁)と菅実秀(臥牛翁)の対話坐像 建立
平成19年	2007年	「南洲翁遺訓に学ぶ」発刊

